



紫雲児の心

先月下旬、地域の方からお手紙をいただきました。朝、畑仕事をしていると自転車で通学する生徒が次々に「おはようございます！」と挨拶してくれるとのこと。ご自身も「おっはっよう！」と返すが、心がとっても明るくなるというものでした。

10年ほど前に勤務していた小学校で毎朝、児童の見守り活動をしてくださっていた方から、「子どもたちと挨拶を交わすのが生きがいです。」とお聞きしたことを思い出しました。みなさんの明るい挨拶が、大きなパワーになるのです。

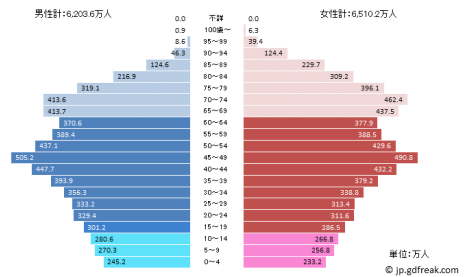


6月の全校朝会から 「これから日本は・・・ 新発田は・・・」

校長 山田 清

上の図は、2020年の日本の人口ピラミッドです。とは言っても、いわゆるピラミッドの形はしていません。生まれてくる子どもの数は少なく、中高年層の人口が多くなっています。

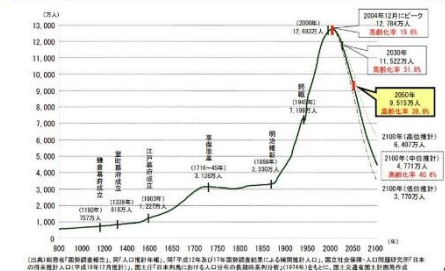
日本の2020年1月1日の人口構成(住民基本台帳ベース)総人口



下の図は、平安時代から、2100年までの予測を含む日本の人口の推移です。明治以降、急激に人口を増加させた後、2004年にピークを迎え、その後は減少を続け、さらに急激に減少すると予測されています。

我が国の人口は長期的には急減する局面に 国土交通省

日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻って可能性があります。この変化は千年単位でも顕著で、極めて急激な減少。



少子高齢化と人口減少が、これからの日本の大きな課題となっています。同じ日本の中でも地域によって、この状況の深刻さは様々です。

私が以前勤務していた阿賀町は、高齢者の割合が高く、人口減少のスピードも速い地域です。実際に、私が勤務した町内の3つの学校全てが児童・生徒の減少のため、現在は閉校となっています。さらに衝撃的なのは、人口減少のスピードがこのまま変わらなければ、50年もしないうちに町の人口がゼロになってしまうのです(恐らくそうはならないでしょうが)。

さて、私達の新発田市はどうでしょうか。2014年に日本創成会議が2040年消滅可能性都市を発表しました。「消滅」というショッキングな言葉ですが、別に土地がなくなるわけでも、人が全く住まなくなるわけでもありません。2010年から2040年の30年間で20~39歳の女性の人口が半分以上になると予想される自治体です。人口減少が続き、自治体として成り立たなくなるという意味でしょう。

この消滅可能性都市に新発田市も該当していたのです。もちろん、新発田市ではこの状況を黙って見てきたわけではありません。住みやすく、魅力ある町づくりを目指して、「産業の振興」や「福祉の充実」などを図ってきました。そして最も力を入れているのが「教育の充実」なのです。今、私達が総合学習などで取り組んでいる活動は、市で推進する「しばたの心継承プロジェクト」の一環でもあるのです。人作りが将来の新発田を左右する決め手であると考えられているのです。

これまでの大人にない発想で、さらに住みやすく、魅力ある新発田、紫雲寺を創造していくことが皆さんに期待されているのです。そのために、新発田(紫雲寺)のことを「よく知っている」、「大好きな」、「発信(自慢)したい」生徒になってほしいと思うのです。